大津市事業レビュー議事録（平成３０年９月１日）

事　業　名	自然体験学習推進事業		
会　　場	新館大会議室	時　　間	１３:２５～１４:３５
事業番号	３	所管部課名	葛川少年自然の家
評価結果	（３）改善し、市が実施		

内訳	（１）不要・凍結	７名
	（２）国、県、広域で実施	２名
	（３）改善し、市が実施	１５名
	（４）現行どおり、市が実施 事業拡大、拡充し、市が実施	８名

事業レビュー発言要旨

【コーディネーター（コ）、審議員（審）、市民評価員（市評）、市担当（市担）】

意見又は質問	質問に対する回答
（コ） 中学生のふるさと体験学習について、各学校で時期や宿泊数などについて、全市一律ではなくて、それぞれ決めてはどうかという点が今回の焦点になります。 公平性のためというのは、泊数や回数が一律でなくなり、バスの借り上げなども、基本的に各学校で、そのほかの校外学習、例えば修学旅行とかそういうのと同じように各学校が負担するというか、実質は保護者が負担されるということですか。	（市担） はい、そうです。
（コ） 具体的に、大体幾らぐらいかかりますか。	（市担） 大体やはり５，０００円前後ぐらいが保護者負担になってくるのではないかと思います。
（コ） 市内でも近いところ、遠いところ、大きい学校、小さい学校があるが、今の同じ水準の２００人一貫のプログラムをそのままそっくり保護者負担とした場合、５，０００円ぐらいになるということですか。	（市担） はい。多くの場合でそれぐらいになると思います。
（審） ５，０００円というと出せない保護者の方もたくさんおられると思うので、そのことが結構判断に影響すると考えられます。	
（コ） 仮に５，０００円保護者が負担になった場合は、一定額の所得以下の家庭の場合は就学援助の対象になりますか。	（市担） なります。
（コ） 修学旅行などの費用は、一定の所得以下の方には就学援助費としてその分金額が教育	

委員会のほうから支給される。	
（審） ２回実施することについて現場の教員の方、保護者の方、それから生徒さんのアンケートとかは。	（市担） アンケートはしていません。ただ、学校から、事業が終わった後は必ず学校アンケートを出してもらい、その中での先生の評価を、また、子供さんについては感想文などで、学校独自ではあるが、子供からの意見は吸い上げている。それらの結果をまとめ上げたものを私たちに聞かせてもらう、あるいは吸い上げている。 この２回というのは、小学４年生は森林環境学習として、中学１年生はふるさと体験として、主に集団づくりを目的に４月、５月、６月に来ます。同じことを２回しているわけではないです。
（審） わかりますが、２回実施する必要があるかということについて、意見を聞かれたことがあるのかということです。	（市担） ２回同じところに来ることについては、先生方から、もう少し違う意味の場もあるのではないかという意見はありました。
（コ） 集団づくりとは、どんな意味があるのか、解説してください。	（市担） 中学１年生になった早々、子供たちもいろんな学校から来られるということで仲よくなるということ、友達を互いに知るということ、自分のよさを再発見するということで、野外炊事やウオークラリーをみんなで協力し合いながら１つのものを完成していく、そういう場に使われている。 　あと、学校ではなかなかゆとりがないので、大きなプレイルームで自分たちの学級の旗をつくったり、あるいはコミュニケーションをはかりながらレクリエーションをしたりという活動です。
（コ） 中学校に入って教室での授業だけでは難しく、そういう外で班活動や、２泊３日という長い時間を一緒に過ごすことで友達もできるかもしれないし、いろんなふだん話ししないことをするかもしれない。中学校１年の４月から６月の早い段階の行事に組み込むことで、学校としては生徒にとってはそれがいいだろうという判断で今まで活用されてきたということでいいですか。	（市担） 最終的な判断は学校長になりますが、今、コミュニティ・スクールとか言われていて、やはり各学校の保護者の意見であるとか、地域の特色や子供の実態に応じて、いろんな要望を聞いた上で、学校で判断される。
（審） 一律としない場合、学校の判断とは、教師が決めることになりますか。	（市担） 最終的にはそういう形になると思います。学校の中の先生と、それから地域の保護者の方の意見を吸い上げながら決めていく形になると思います。

（審） 今の時点で保護者の意見を聞いておいても良かったのではないか。現場の声がなかなか聞こえてこない。 少なくともやめると決めれば、そういうふうな決定をするということであれば、聞いていただいていたら非常に参考になると思いました。	（市担） ありがとうございます。保護者の意見とかもすごく大事なので、そういう形で動きたいと思います。
（コ） 今回対象とするに至った経緯として、例えば中学生も忙しくなってきたのでこの２泊３日という時間をつくるのが難しいという学校が出てきたとか、何かそういう動機や声など、きっかけはあるんでしょうか。	（市担） 実は中学校にはアンケートを行った。今の２泊３日でやっている体験学習についてはどのような方針をお持ちですかということについて、その結果、学校サイドに任せてほしいという意見が大部分を占めていて、時期についても、それぞれの学校に委ねてほしいという意見が非常に多かったです。 内容につきましては、今のふるさと体験ではなく、例えば防災学習として、一度、学校の中で考え直したいという意見もありました。
（審） 少なくとも形を変える、あるいは今のまま継続であっても、自分らで判断して決めるならば、まずコストを誰が負担するかということについて、もし継続するところが大半であれば、こういうことも考えられるとかなど教えてほしい。	（市担） 大津は広く、当然都市部にある中学校もあれば自然豊かな中学校もあります。その中で一律同じことを行っていくということが、一定の成果はあるものの、それぞれの学校判断に任せるということも考えますが、コストが保護者負担になると、本来ならば軽減していくべきだと考えております。そこが難しく、市民の皆様がどう解釈し、何を大事にしたほうがいいと考えておられるのかを吟味していきたい。
（審） 保護者負担になるということを前提に、各学校は学校裁量にしてほしいという意見があったのですか？	（市担） 保護者負担にはついてはアンケートでは聞いていない。 学校負担になるということは校外学習という形になりますので、校外学習と本事業は全く別物なので、そういう意味では一律でするということと、校外学習でするということの意味が違うということは十分承知していると思います。
（コ） 学校に聞いたら、時期も日数も学校裁量でやらせてほしいという意見が多かったということですが、数字はありますか。	（市担） ほぼ全てです。１８校ありますが、１、２校少し違う意見がありました。
（コ） そういう裁量を求めている学校が多い。そうすると、裁量を持っていることになると校外学習の扱いになって、教育委員会の事業ではなくて各学校の事業というか行事になるので、基本的にその場合は費用が発生	

したら税金投入ということではなくて、食費とかバスの費用は基本的に保護者負担になる。そこをどう許容していくのかということです。	
（審） 各学校の判断で校外学習としてする場合、今までの予算があるんだったらそれを使えばいいかなと素人としては思ってしまいますが、使えない事情というのはどういったところにあるのか教えていただきたいなと思いました。	
（コ） この事業の予算である１，０００万円を各学校に分配するということですね。	
（コ） 整理しますと、一つ目は、一律実施で大津市負担、保護者負担は無し。二つ目は、学校裁量で、補助事業として補助金支出、保護者に対する補助。三つ目は、学校裁量で保護者が負担する。ただ、レビューの考え方からすると、学校裁量にした時点でこの事業としては廃止ということ。	
（審） この事業自体をやることの意味というか、むしろ一律に実施することの意味というのは。	（市担） ３１年前に開設した当時、大津の子供たちは必ず小学校４年生と６年生、２回葛川を経験しましょう、共通体験という意味合いで一律ということではなかったかなと思います。 自然体験が不足する中で、大津の子供たちに葛川という自然の中で体験をさせるという大きな意義を持っていることは間違いないとは思います。
（審） この施設、例えば第三者、大津市民、県外の方々に利用してもらうことは可能なのか、そういうことを教えていただけないでしょうか。	（市担） はい。本施設につきましては、小・中学校のみならず一般利用もしているので、市内市外問わずやっています。ただ、先ほども説明の中にございましたように、小・中を含む６名以上の団体であり、教育目的としているということがあります。宿泊だけは一切お断りさせていただいてます。 条例があるので、改定する必要がある。
（審） 一律で少年自然の家に行くべきかどうかという話は、本来、教育のプログラム全体を考える部署が考えることである。各学校の裁量に任せるべきかどうかを議論するよりは、全ての学校が行く意味を持たせるように、学校と話し合ってプログラムを変えるとか、そういう観点もあってもいいのではないかと思いました。全ての学校が、来た	（市担） プログラムについては、いろんな震災あり、子供たちの自分の命を守るということで、防災教育を自然の家でできたらどうかという意見もある。防災教育の視点から何ができるのか、例えば炊き出し体験、テント張り体験、寝袋体験であるとか、あるいは支所が避難所にもなりますので、避難所開設を体験してみるなど、また、関係機関と提

いと思うようにプログラムに変えたりとか検討する考えはありますか。	携を図りながら、違うプログラムも展開していきながら魅力のあるものにし、そして学校と一緒に何かをつくり上げていけないかなということを考えています。
（審） 自然体験というのはすばらしくて、私も小学校で行ったんですけど林間学校と言われている時代に、やっぱり記憶に残ってるんです、そういう体験はすごく得がたいと思いますけど、２回行く意味がどこにあるのか私にはちょっとわからない。実際に体験した子供たちがどんなふうに考えてるのかすごく興味がある。できればアンケートや感想文で、どういう意義があるのかというのをもう一度考えられたほうがいいと思います。	
（コ） ２回行く意味について、何かその違いがもしあれば。	（市担） やはり中学校に来られても楽しかったという子供たちがほとんどです。特に全中学校は野外炊事をされてますので、その野外炊事については余り小学校では取り組まないので、そういう意味では野外炊事はすごく楽しかったという意見が子供の中では多く見られるところです。
（コ） 小学校で野外炊事をやらないのは、１泊２日で時間が短いから、それとも能力ですか。	（市担） 時間の問題もありますし、あと森林学習なので、木を使ったクラフトなどにメインに持っていかれるところが多い。
（市評） 今の中学生にこそ、友達と一緒に寝て生活して自然と触れ合う体験が必要だと思います。小学生のときと同じ場所ですることにも意味があると思います。自分の成長、友達の成長を確認することができます。今、中学生のこの事業をなくすことは、私は本当に恐ろしいです。いじめとかなんとかいっぱい問題になってるときに、友と一緒に寝て暮らす。今、近所でも盆正月に帰ってくる子供の声を聞くことがないんです。共同で寝たことがない子がいっぱいいるんです。だから、その中でこの体験は私は絶対になくしてほしくない。どうしてここの議題に上がるのかしらと、ここの資料をもらったときから、なくす気かと。本当に私は、県外から来た者ですけれども、このすばらしい事業を続けてほしい。中学の希望も入れながら、子供たちのために何とか充実して続けてください。お願いします。	

（市評） ご説明いただき、ありがとうございます。僕も中学校のときにこの事業に参加させていただいて、すごいいい体験をさせていただいたなと思います。特に自然に対して初めは怖いなっていうこともあったんですけども、自然と日を追うごとによって、こういう機会もある、成長したなというところも思いました。特に僕が高校のときに、別の草津市の友達に、葛川とか行ったことあるって聞いたんですけど、ない、行きたかったという声が多かったので、私からの提案なんですけれども、別の草津市や栗東市の中学校も全員巻き込んで、滋賀県に来たら葛川の少年自然の家を体験できるというふうにしたほうがいいんじゃないかなという個人的には思いました。	

主な市民評価員 の 評価シート 特記記載内容	・時期や目的は学校裁量にすべきだと思う。 ・集団づくりが目的であれば、4 月や 5 月に実施するのはわかるが、主な目的はやはり自然体験であり、そこに葛川で実施する意義があると思う。集団づくりはその副産物のようなものと考えられる（かならずしも葛川で実施する意味はない）ため、一律実施にすべきとは感じない。 ・各学校の裁量に任せることは教育の平等性？が無くなると思う。 ・同じ場所に 2 回も行く必要はないと考える。 ・防災教育として、兵庫県は震災の後、お金のない中で、4 泊 5 日のキャンプをするようになったと聞く。バス代が高いのであれば、小学校のうちに 4 泊 5 日で、これからの自然災害にも強い子を育てるプログラムにしたらどうか。 ・学校側と相談してそれぞれの学校のプログラムをたてるのがいいと思います。それより追加料金が増えるのであれば保護者負担にしたらよいと思う。 ・継続してもよいと思う。 ・小中では同級生も違うので 2 回やってもよい。 ・若いときに屋外集団生活を体験することは　とても有意義だと思う。 ・学校裁量にしてほしいとの声があるとの事であるが、そうしてしまうと学校側は保護者負担が増えるのを懸念し活動を自縮してしまうような気がするので、私としては現状のまま続けてほしいという願いがある。 ・学校裁量にすると先生の負担が増えるのでは